生活科学教育における絵図によるセルフチェック方式の導入・応用

An Introduction and Application of The Self-Check System by a Picture and Graph in Education of Science of Living

高 橋 類 子*・町 田 順 子**

Ruiko TAKAHASHI* and Junko MATIDA**

Abstract

In this study we tried to introduce and apply the self-check system by a picture and graph in education of science of living.

The objects of this application were one class of teachers, two classes of students, and two classes of junior high-school pupils, the total number of whom were 160. The test had started since April in 1994 and continued for three years and six months.

The results are summarized as follows:

1. The self-check system bya a picture and graph, which we named 'Drops of Umbrella', was found effective method for self-analysis of human relations.
2. All participators could take part in the evaluation of learning. Teachers could understand this pupils more wholly. Pupils could be made feel the problems of themselves through watching the others' drama. All participators evaluated the teaching by this system.
3. In practical class-room teaching the first and second factor, that is, "inner stimulation" and "aid-guidance method", had high efficiency in a learning-process.
4. This system, if teaching-process is reformed, improved the quality of class-room teaching.

Key words:
the self-check system by a picture and graph, drops of umbrella, human relations, self-analysis education of science of living, lerning-process.

---

*新潟大学教育人間科学部生活科学教育研究室
**六日町立六日町中学校

I　緒　言

学校教育の中の学習者や援助・指導者にとって、自己分析や人間関係というイメージは、難しそうというのが一般的である。多くの自己分析の手法は、性格など自己の内面的なものに焦点を置き、自分への気づきや他者理解によい成果を上げている（例えば、末松弘行ら、1989）。少子化に伴う学校教育の質的変換が早急な課題となっている中で、援助・指導する教師や学習者が生活科学教育の内容にも質的変換を求め、社会的にも要請されている現在、援助・指導する立場としては、先の焦点と同等に人間関係の中で自己をとらえることも、大切なことであると考える。

小島茂（1996, 1997）は、わかりやすくしかも人間関係の中で自己分析ができる、絵図を用いたセルフチェック方式を開発し、日本精神衛生学会で報告している。提唱しているワイングラスと中のビーズは自分の「人間関係の理想と現実」をビジュアルに知る上で有効であり、2つ目のタコの足は、自分の「人間関係のネットワーク」を知る上で特に有効と述べている。そして、3つ目の傘の滴は、「子ども時代の自分」について知る上で有効であるとしている。

本研究では、保育や家族を教育・研究の対象とする生活科学教育に、絵図によるセルフチェック方式を導入・応用することが、援助・指導する教師、学習者の双方にとって意義あるものと考え、実践授業を試みたので報告する。

第1部を教師・学生の部とし、中学生の部を第2部に該当させるものとし、相互に情報をフィードバックさせながら研究を進めた。

II　方　法

1研究対象：現在家庭科を援助・指導する教師gr.30名、将来、生活科学教育の援助・指導者となる学生gr.26、34名の計60名、公立中学校3年生35,35の計70名とした。

2研究期間：'94年4月～'97年10月までの3年6カ月とした。

3研究方法・内容：「生活科学教育における絵図によるセルフチェック方式の導入と応用の理論と実践」　絵図によるセルフチェック方式の導入と応用に際しては、クレヨンを使用し、描いたことについて、本人から必ず語ってもらった。本時に関する内容の秘密事項は、教室空間内にとどめる契約を取り、守秘が習慣として育成される態度と位置づけた。秘密事項の表出は、自己申告の形となるが、第1位の秘密事項は伏せて、差し支えのない2、3位とすることを伝えた。本報中に示した絵図も、適宜、目隠し、筆跡の書き換えなどを配慮した。

(1)　授業実践…平常の授業、あるいは集中講義の中で施行した。体験学習条件としては、一人の教師に対し、理想としては30人を限度とした。机・椅子を稼働させ、自由に動ける空間を準備することを心がけた。授業実践①～④の内容を以下に示した。

授業①　家族交流を活性化させる学習…自分への気づき、ストロークの授受、生体エネルギー法手による5つのタッチ、シェアリング。

授業②　幼児期の思い出…ウォームアップ、物を使ってペアを組む、絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」を描く、傘の滴の人間関係を語り合う、オムニバスサイコドラマ、ペア解消、預かった物の返還の儀式、シェアリング。

授業③　生活のコーディネート…衣服の機能、ことばと色、嗜好イメージ、生活のコーディネート、シェアリング。

授業④　再育児療法…ラケット感情を伴う現実の親子関係を理想的なものに変容させた。

(2)　授業研究評価：授業評価項目は高橋類子、増野肇（1996）が作成した33項目を用いた。

授業研究の評価項目を短絡名で以下に示す。

1.社会的背景・ニーズ　18.学習意欲の喚起
2.学習者の実態把握　19.家庭での実践力育
3.コミュニケーション　20.消費者としての自覚
4.家庭生活の把握　21.全員参加
5.目標の設置　22.自己を見つめ直し他者理解
6.発達の考慮　23.家族・他者に共感
7.幅広い参考文献　24.主体性の育成

8.動機づけの工夫　25.自分の問題に気づく
9.導入方法の工夫　26.自己解決能力の育成
10.的確な資料の充　27.心豊かになる
11.教具・教材の活　28.交流のある楽しい授業
12.教科書の利用　29.思いや考えを生かせる
13.独特の指導方法、場・活動の設定
14.時間配分の工夫　30.和やかになる
15.学習者に疑問持　31.感受性・創造性の育成
16.主体的な授業参加　32.個性を生かす
17.理解への手だて　33.不思議な世界迷い込む

上記、33の評価項目に対して、3点段落評点法は、重視したものから、5項目を選択し、重視順位を記入した。得点は、1位を13点、2位を10点、3位は7点、以下4点、1点として集計した。5段階尺度法は、非常に重視を5点、やや重視を4点、どちらともいえない3点、やや軽視2点、軽視を1点として評価、処理した。

(3) 因子分析：先の実践授業を含む過去3年間の66の実践授業に対する33項目、5段階尺度法、学習gr. 全体の評価を用いて、4因子指定の因子分析（主因子法、バリマックス法）を行い、因子負荷量をもとに因子名をつけた。

(4) 因子別レーダーチャート図の作成

III 結　果

1．実践授業③の衣生活科学では、導入で傘の滴を用い、「傘」を中央から左右に分け、一方を幼児期の衣服、他方を現在の着装とし、それぞれの「滴」に状況や思いを記入していった。次に、4～5名のgr.で自分の着装を伝え合った。傘の滴の絵図は、後半第2部の中学校の実践授業で数多く挿入されるので、ここでは省略した。

(1) 幼児期の傘の滴から導き出されたものは、<母親がレースやフリルを付けた可愛い服を着せてくれた。>、<きれいな色の服を着ていた。>、<衣服のことなのに、傘の滴を描くことは、家族に対する突き上げる胸の想いがつのる時間となった。>、などが挙げられた。現在の着装は、<自分らしい服装を心がけている>、<健康にいいものを着ている>などで、幼児期・現在ともに<クラスメートと共感・共有する部分が多いのに驚いた。>とも述べていた。

2．衣生活科学終了時に絵図によるセルフチェック方式を応用して、印象に残ったことを表現してもらった結果の例を、次に示した。

(1) 生活科学の授業をイチゴで表現した絵図を図1として示した。<イチゴが生活科学の授業を表わし、種は印象に残った内容、人、物などである。種の大きさより、種の数が自分の中に占める割合である。色の種の数が多いのは、自分の中で最も印象に残っていることだからで、もっとカラーリングがしたかった。セルフチェックのように数の少ない単語は授業の中で自分が必要と感じた事柄を示す。先生は授業内容の中心にいて、自分は先生の従来の枠をゆるめる教育方針には賛成しているし、余談も気に入っていた。クラスメイトは、テストの近くに存在し

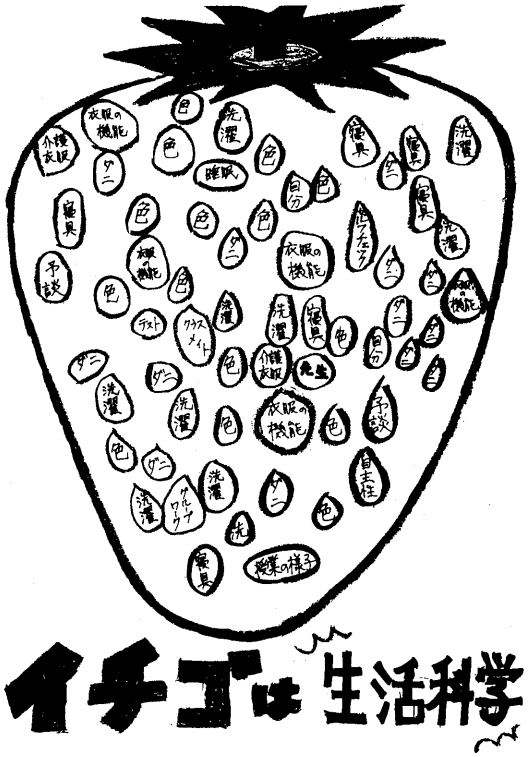


図1　生活科学の授業とイチゴ

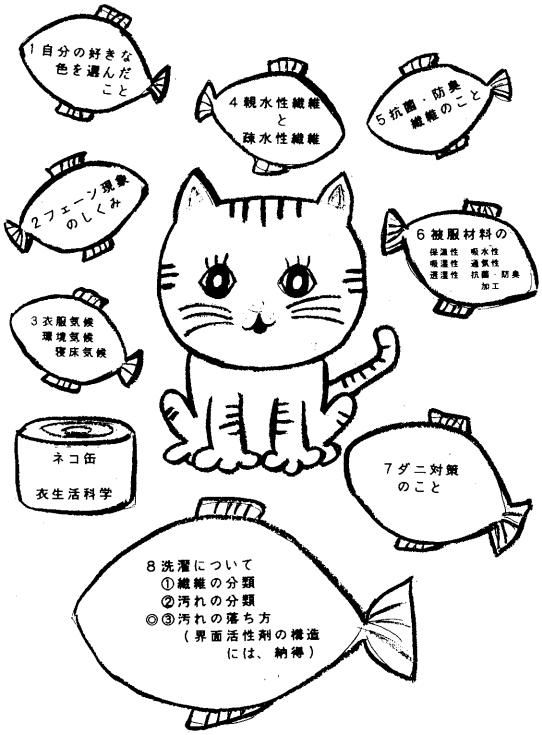


図2　ネコ缶と生活科学

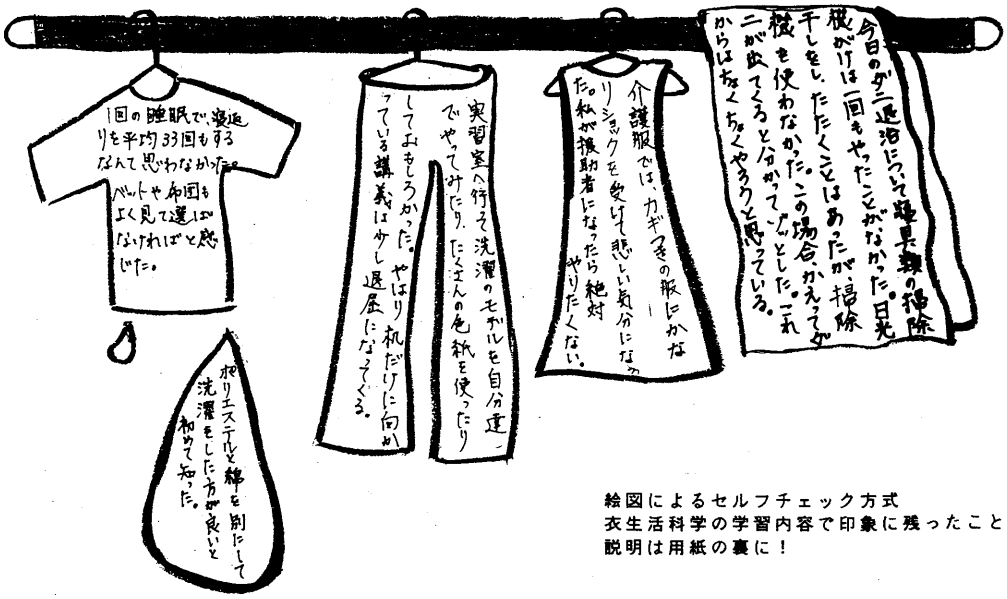
ている。寝具とダニが近く、密かに自分がダニの中にいる。＞

(2)　ネコ缶を生活科学として描いた絵図を図2に示した。＜色の好き、嫌いは個人によってはっきりしていて、無意識のうちに好きな色を身に付けているのでびっくりした。「どうして、今日はこんなにむしむしするんだろう？」「フエン現象だ！　仕組みを教えてもらってすっきりした。」　私は洗濯が好き。界面活性剤の頼もしさ、威力が汚れ脱落思考中心の私を変えてくれた。早く布団を干そう。そのあと、掃除機をかけるのを忘れないようにしよう。ダニ退治とはいえダニはかわいそう！。＞

(3)　介護衣服の鍵つきにショックを受けた絵図を図3に示した。＜介護衣服では鍵つきの衣服にかなりショックを受け悲しい気持ちになった。私が援助者になったら絶対に鍵をかけたくない。将来、車椅子で外出できて、快適な衣服をどんどん開発したい。＞

3．授業②で、傘の滴に導かれた人間関係の中の自己分析の例を、次に示した。

(1)　＜私が傘の滴に描いた人間関係は、保育



絵図によるセルフチェック方式
衣生活科学の学習内容で印象に残ったこと
説明は用紙の裏に！

図3　介護衣服の鍵

所時代の先生に裏切られた状況が滴の１つとなった。嫌な思い出だったが、傘の滴をもとに語り合い、私の題材をみんなで演じることになった。そして、私にとって良い思い出になるように、再度、サイコドラマを演じたことで、そのとき私はどんなことを感じたのか、先生にどうして欲しかったのか、嫌な思い出としてではなく、裏切られた子どもの気持ちがわかる思い出として、私の中で記憶し直すことができた。傘の滴で語り合い、身体を動かし演じたことで、状況が鮮明に思い出せた。また、シェアリングで先生やみんなから、自分の思い出に共感を持ってもらえたことが、嬉しく、かっての辛い思い出も良い思い出として自分の中に位置づけられ、考えさせられる、忘れられない授業となった。＞

(2)　これまで関わってきた人を機関車に乗せた絵図を図４に示した。＜トンネルは、幼い頃の家である。機関車に乗っている人たちは、私とこれまで関わってきた人たち。良かれ悪しかれその頃のことが今でも尾を引いている。トンネルを抜け、線路を離れたと思ったのは大学、社会人となってからかな……。そして、周りの星の人たちは、今もこれからも離れられない人たちである。＞さらに、彼は続ける。＜このように、自分を振り返ることはほとんどなかった。絵図に描いてみて、そして、講義に参加した人たちと話し合ってみて、昔とつながりある今の自分を発見することができた。＞、＜一番感じたのは、ストロークの授受で心が軽く、心地よくなった。家庭生活の中で生かそうと思っている。＞

(3)　再育児療法の手法を通して、ワイングラスにビーズを入れた絵図を図５に示した。＜今の自分、これまで歩いてきた過程の自分の姿は、幼少期の環境に要因があるかも知れないと考え始めてきた。再育児療法では、話したくない、聞き役になろうと思っていた。しかし、実際には心の囲いがとれてみんな話せた。話せた自分

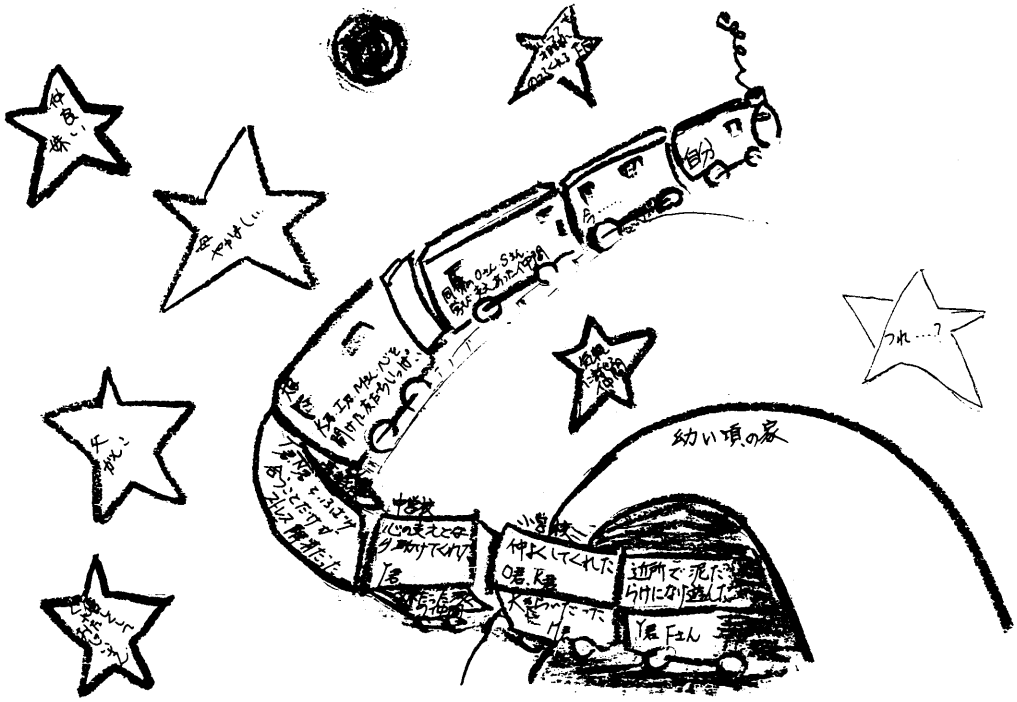


図４　これまでの人を機関車に乗せて

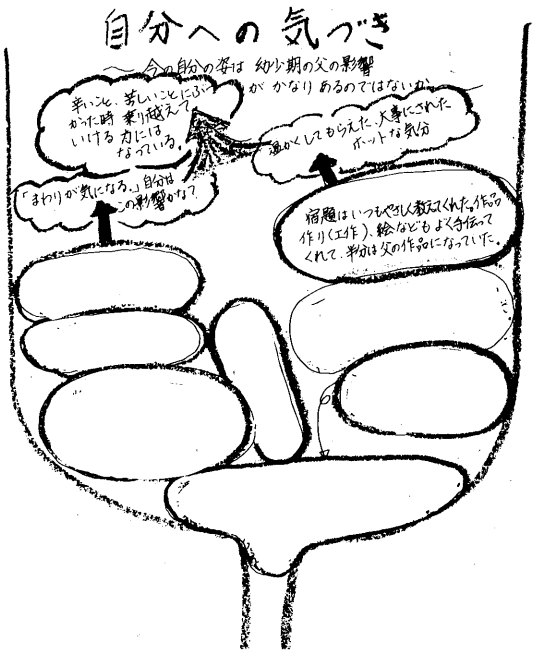
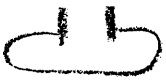


図5　再育児療法を通して



にも驚いたが、涙が出てきて困った。ペアの方の似た体験に共感した。グラスの中に書き入れてみたら、心の整理ができました。>

4．傘の滴に導かれた人間関係の中の自己分析の授業評価：現役の教師gr．や学生gr．は、幼児期の思い出のサイコドラマで、ウォームアップで心を開き、絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」を描き、物を使ってペアを組み、傘の滴で導かれた人間関係を語り合った。そして、教師gr．のざりがに採りの思い出、学生gr．の幼稚園の運動会の思い出、さらには、保育所時代の辛い思い出をオムニバスサイコドラマとして、みんなで演じた。その後ペア解消の預かっていた物を返却する儀式を行い、シェアリングで共感・共有した部分を分かち合った。一連の実践授業②を、受講生の教師gr．や学生gr．が、どのように授業評価したかを見てみよう。

(1) 授業研究の評価：「絵図によるセルフチェック方式傘の滴を導入した幼児期の思い出」授業研究の評価（33項目、5項目選択、3点段落評点）を図6に示した。

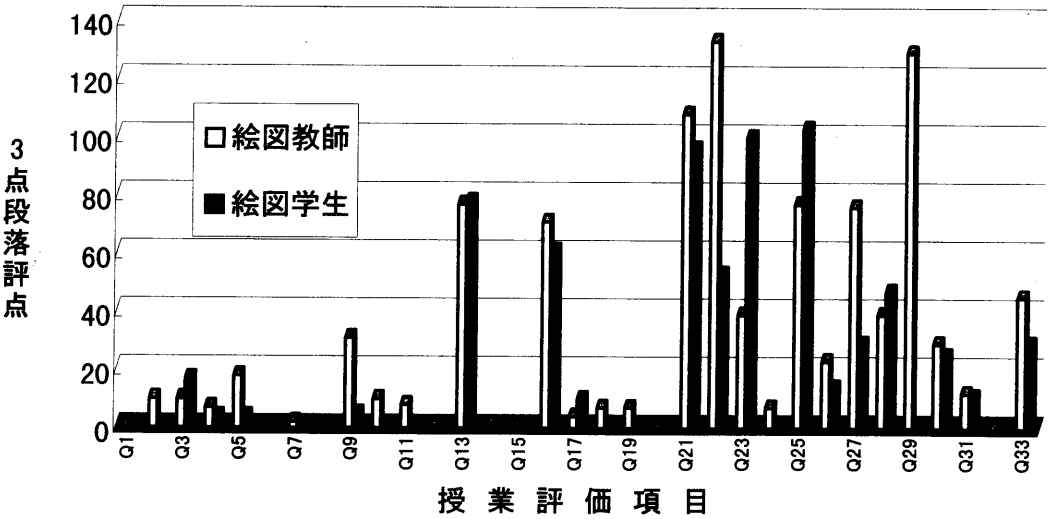


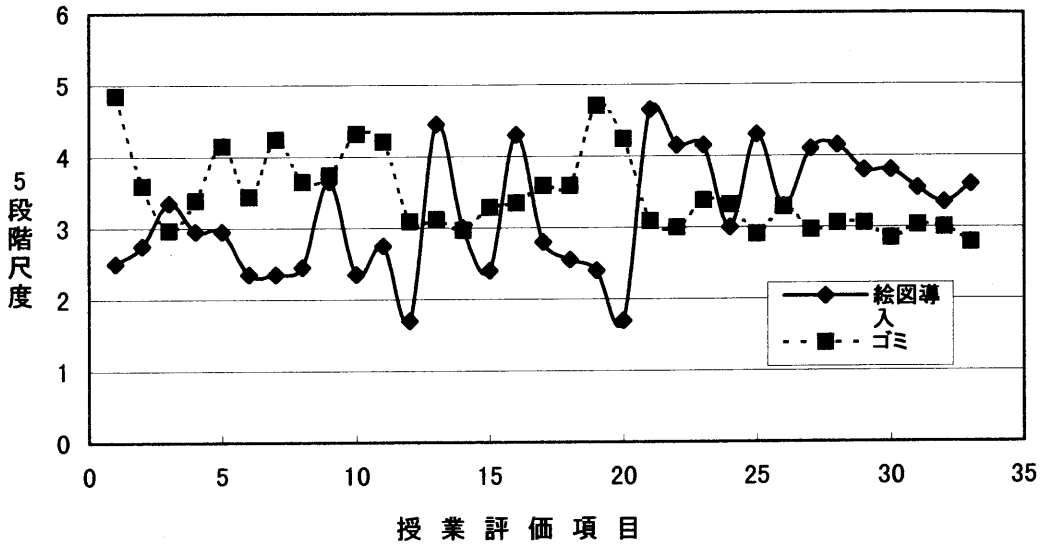
図6　絵図によるセルフチェック方式を導入した幼児期の思い出

教師gr. の１位は、「22.自己を見詰め直して、他者理解」133点、２位は、「29.自分の思いや考えを活かせる場・活動の設定」129点、３位は「21.全員参加」96点、「25.他者のドラマから、自分問題への気づき」77点、「27.自己表現、心豊か」76点の順であった。

学生gr. の１位は、「25.他者のドラマから、自分問題への気づき」103点、２位は「23.家族や他者に共感」100点、３位は「21. 全員参加」401点、「13. 独特な指導方法」78点、５位は「16. 主体的に参加」61点と続いた。

(2) 教師gr. と学生gr. の評価の相関係数：「21.全員参加」は、教師gr. ・学生gr. 共に、非常に重視していた4.7と評価、「13.独特な指導方法」も同様に両者とも4.5で非常に重視していたと評価していた。「22.自己を見つめ直して他者理解」は両者ともやや重視で、4.4点と4.2点であった。「16.主体的な授業参加」「28.交流のある楽しい授業」もやや重視に位置付けられた。教師gr. が高く評価する項目は、学生gr. も同じように高く評価し、教師gr. と学生gr. の授業評価間には相関係数 r＝0.8で、強い相関があった。

(3) 他領域との比較の意味で、学生gr. 間の「絵図導入」と「ゴミ・リサイクル」の授業評価項目別平均得点の分布を図７に示した。「絵図導入」と「ゴミ・リサイクル」の評価は、「21.全員参加」は、絵図導入は非常に重視していた4.7と評価、ゴミ・リサイクルは3.1でどちらでもないであった。「13.独特な指導方法」



1社会的背景・ニーズ　2学習者の実態把握　3コミュニケーション　4家庭生活の把握
5目標の設置　6発達の考慮　7幅広い参考文献　8動機づけの工夫　9導入方法の工夫
10的確な資料の充　11教具・教材の活　12教科書の利用　13独特の指導方法、場・活動の設定
14時間配分の工夫　15学習者に疑問持たす　16主体的な授業参加　17理解への手だて
18学習意欲の喚起　19家庭での実践力育　20消費者としての自覚　21全員参加
22自己を見つめ直しての他者理解　23家族・他者に共感　24主体性の育成　25自分の問題に気づく
26自己解決能力の育成　27心豊かになる　28交流のある楽しい授業　29思いや考えを生かせる
30和やかになる　31感受性・創造性の育成　32個性を生かす　33不思議な世界に迷い込む

図７　絵図導入とゴミ・リサイクルの散布図

も同様に4.5で非常に重視と3.1どちらでもないであった。「22.自己を見つめ直して他者理解」は4.2点と3.0点であった。「16.主体的な授業参加」4.3と3.4、「28.交流のある楽しい授業」4.2と3.1、もやや重視とどちらでもないに位置付けられた。絵図挿入が高く評価される項目は、ゴミ・リサイクルは低く評価された一例であった。ゴミ・リサイクルが高く評価された項目「1.社会的背景・ニーズ」4.9で非常に重視に対し、絵図導入は3.5でやや重視であった。「19.家庭での実践力の育成」4.7と2.4で絵図導入はやや軽視に位置づけられた。「10.的確な資料」は4.3と3.6のやや重視、「20.消費者としての自覚」4.2、と1.7で、ゴミ・リサイクルが高く評価される項目は、絵図導入は低く評価される傾向があった。ゴミ・リサイクルと絵図導入の授業評価間の相関係数は r＝-0.6で、負の中等度の相関があった。

5．因子分析：4因子指定の因子分析を行った結果を表1に示した。各因子の因子負荷量の得点の高い項目を抽出し、因子名を付けた。

第1因子：「内面の揺さぶり」　特徴的な項

表1　因子別因子負荷量

評価項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
32　個性を生かす	.632			
23　家族・他者に共感	.627			
26　自己解決能力の育成	.620			
27　心豊かになる	.610			
24　主体性の育成	.609			
28　交流のある楽しい授業	.606			
25　自分の問題に気付く	.596			
31　感受性・創造性の育成	.583			
30　和やかになる	.579			
22　自己を見つめ他者理解	.457			
4　家庭生活の把握		.574		
29　思いを生かす場の設定		.560		
16　主体的な授業参加		.545		
33　不思議な世界		.543		
9　導入方法の工夫		.542		
13　独特な指導方法		.531		
3　コミュニケーション		.528		
15　学習者に疑問を持たす		.511		
7　幅広い参考文献		.504		
5　目標の設置		.501		
20　消費者としての自覚			.580	
6　発達の考慮			.491	
1　社会的背景・ニーズ			.468	
12　教科書の使い方			.472	
8　動機づけの工夫			.460	
11　教具・教材の活用			.449	
17　理解への手だて				.501
19　家庭での実戦力育成				.370
10　的確な資料の充実				.358

目として、「32.個性を生かす」「23.家族・他者に共感」「26.自己解決能力の育成」「27.心豊かになる」「24.主体性の育成」「28.交流のある楽しい授業」「25.自分の問題に気付く」「22.自己を見つめ直しての他者理解」「31.感受性と創造性の育成」「30.和やかになる」など、学習者の内面への揺さぶりが読みとれた。

第2因子：「支援・指導方法」　特徴的な項目として、「4.家庭生活の総合的な把握」「29.思いや考えを生かせる場・活動の設定」「16.主体的な授業参加」「33.不思議な世界に迷い込む」「9.導入方法の工夫」「13.独特の指導

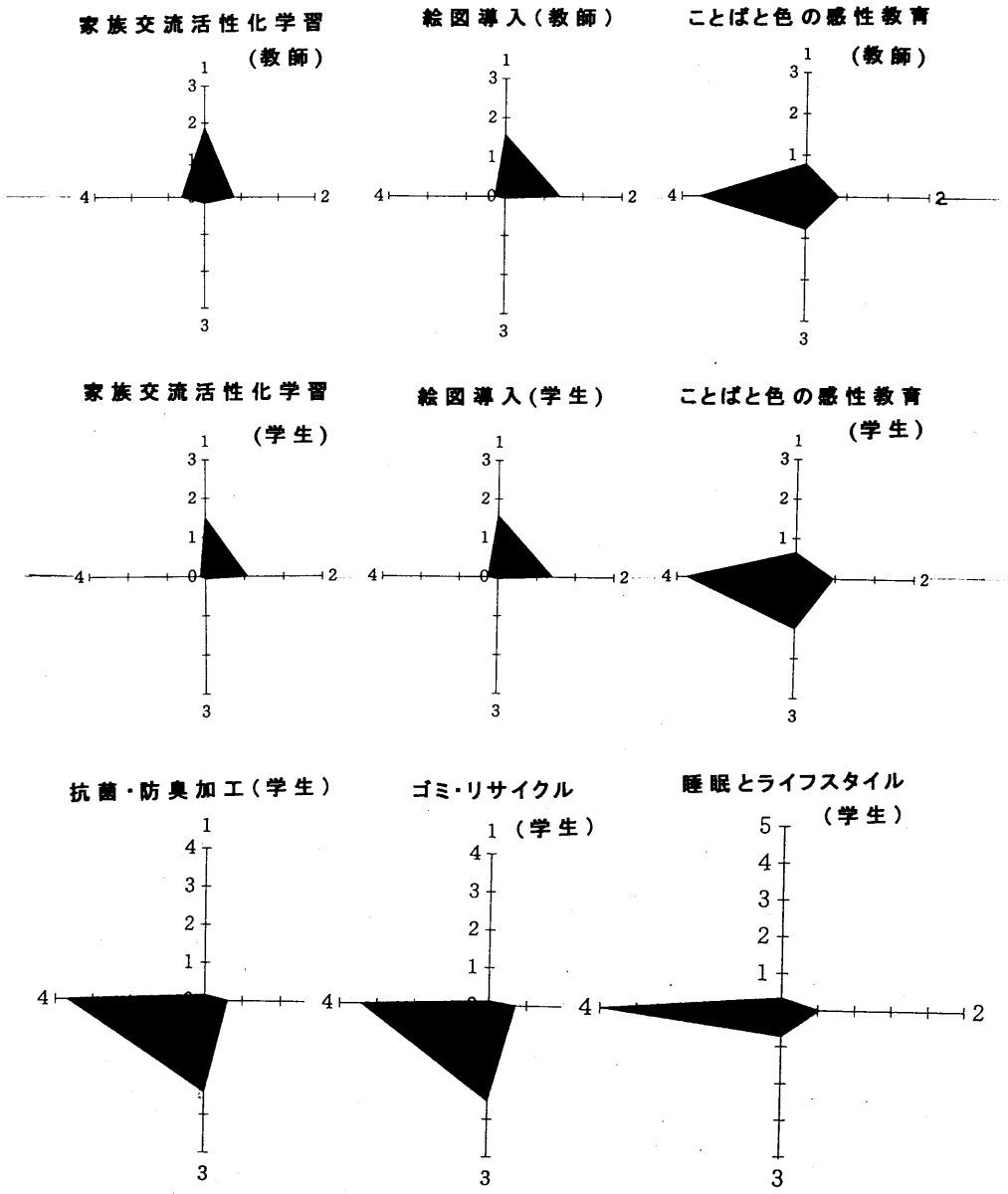


図8　因子別レーダーチャート

方法」「7.幅広い参考文献」など、支援・指導方法、効果的な学習方法の工夫が読みとれた。

第3因子：「学習者理解」　特徴的な項目は、「20.消費者としての自覚」「6.発達の考慮」「1.社会的背景・ニーズ」「12.教科書の利用」「8.動機づけの工夫」「11.教材・教具の活用」など、知識・概念を習得させるための、援助者による学習者の理解重視が読みとれた。

第4因子：「実践力の育成」と名づけ、「17.理解への手だて」「19.家庭での実践力育成」「10.的確な資料の充実」など、学習者の実戦力育成が読みとれた。

6．因子別レーダーチャート

各授業研究ごと、因子別に3点段落評点の平均を算出し、図8にレーダーチャートとして示した。実践授業②の絵図導入の幼児期の思い出のサイコドラマは、教師gr.、学生gr. 共に、第1因子、第2因子が高く評価され、学習者の内面を揺さぶる体験学習であった。実践授業①の家族交流を活性化させる学習も同様な評価であった。

「ゴミ・リサイクル」「抗菌・防臭加工」は第3因子と第4因子が高く評価されていた。これらの授業は、知識や概念を習得させるために、援助者が学習者を理解すると共に、家庭での実践力の育成を重視した授業であった。

Ⅳ　考　察

本研究では、生活科学教育の質的変換のひとつの試みとして、絵図によるセルフチェック方式を導入・応用を検討した。研究対象を30名前後にしたことは内面を揺さぶる授業として適当な人数であった。特に、児童・生徒に日常的に接していて、課題を見つめながら、援助・指導に当たっている現役教師30名の反応、意見、評価は、貴重な参考資料となった。研究期間も'94年4月～'97年10月までの3年6カ月としたことは、学習者の内面の葛藤を配慮し、計画的に手順を追って、人間の行動に関する理論と技法を組み込む時間の使い方にゆとりがあり、心が安定していて満たされ、内面を揺さぶる高い評価を生み出す原動力となったと思われる。

絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」は人間関係の自己分析に有効な手法であり、傘の滴を描きながら、家族・友人への心豊かな想いのつのる時間となったことは、その有効性が証明されたといえよう。

サイコドラマのディレクターの立場としては、ウォームアップで、心が開示された後に行うオムニバスサイコドラマの前に、「絵図よるセルフチェック方式の傘の滴」を導入すると、オムニバスサイコドラマがより和やかなうちに進行することがわかった。初めての体験学習者でも、ディレクターにとっても、スムーズに心が開示され、容易に心の状況を把握することができた。

授業研究の評価は、教師gr. の1位は、自己を見つめ直して、他者を理解させる授業であり、2位は、自分の思いや考えを活かせる自主的・自発的に学習できる場・実践的・体験的活動を取り入れた授業で、3位は、全員参加できる授業であった、と評価したことは、サイコドラマのもつ内面への揺さぶりの効果もさることながら、傘の滴がそれを一層高めたものと考えられる。

学生gr. の1位は、他者のドラマから、自分の問題に気づかされる授業であり、2位は家族や他者に共感できるような授業で、3位は、全員が参加できる授業であった。さらに、普通の授業と異なったアイディアの援助・指導方法で工夫されていた、と評価していることは、教育改革後の21世紀が目指す教育にそうものと考えられる。学生評価の2位の家族や他者に共感できるような授業、が教師の重視評価項目に入らなかったのは、教師は自分が授業する立場で受講したり、いつの間にかディレクターの立場としての評価にウエートが置かれるからであろう。

因子分析の結果、「傘の滴」を導入した実践授業は、第1因子「内面の揺さぶり」と第2因子「援助・指導方法」の負荷量が高かった。他の領域「ゴミ・リサイクル」「抗菌・防臭加工」などと比較しても、傘の滴を含む授業は、内面の揺さぶりという特徴ある授業展開ができたと

評価できよう。

この手法は、指導過程の工夫、取り入れ方によって、描くものの「良さを発見」でき、特にまとめの過程での応用は、日常生活における「夢」や「嗜好イメージ」までが表現され、個性豊かな内容となることに援助・指導する教師自身感動することができた。

実践の課題としては、体験学習条件として、一人の教師に対し、30人を限度とすること、机・椅子を稼働させ、自由に動ける空間を準備することが必要であり、大学の現状では望めないことで、改善の必要性が高く、当面の最も急務な要請事項となっている。

絵図によるセルフチェック方式の導入と応用に際し、クレヨンを使用するのは、クレヨンの感触が幼い頃の思い出につながり、暖かい感触で、普通のペンで描くより、心が表出しやすく、おおむね良好な結果を得ている。

人間関係としては、家族や家庭の在り方や機能が変化してきていることを配慮しなくてはならないであろう。親や子が、それぞれ抱えている内的な葛藤を理解せずに、あるべき姿に枠付けしようとすることは、内面の揺さぶりにはほど遠く、攻撃的な感情を生み出すのではないかと懸念される。家族は一つの形態だけではないという理解のもとに、家族の人間関係を考えていく姿勢が大切なことと考える。家族の抱えている問題は時代や社会と密接に関係しているという視点に立って、絵図によるセルフチェック方式を生活科学教育に導入・応用していくことが臨ましいことであろう。

描いたことについて、本人から必ず語ってもらうが、本時に関する内容の秘密事項を、教室空間内にとどめる契約を取り、守秘が習慣として育成される態度と位置づけたい。守秘態度が育成されている集団では、信頼関係のもとに体験学習の効果は一体感となって、より生きる力を培う原動力になるであろう。

最後に残るのは、援助・指導する教師に関わることである。教師はたゆまぬ研鑽を積むこと、そして、生活科学教育を援助・指導する教師としての分をわきまえ、関わりの限界を知り対処することが重要であろう。

V　結　論

本研究では、生活科学教育の質的変換のひとつの試みとして、絵図によるセルフチェック方式を導入・応用を検討した。研究対象は、1クラス30名を理想として、教師gr.30名、学生gr.26、34名の計60名、公立中学校3年生gr.35,35の計70名で、期間は'94年4月から、'97年10月までの3年6カ月とした。

結果は、次の通りであった。

1．絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」は、人間関係の自己分析に有効な手法であた。

2．授業研究の評価は、教師gr. の1位は、自己を見つめ直して、他者を理解させる授業であった。2位は、自分の思いや考えを活かせる自主的・自発的に学習できる場・実践的・体験的活動を取り入れた授業であった。さらに、全員参加できる授業であった、と評価した。

学生gr. の1位は、他者のドラマから、自分の問題に気づかされる授業であった。次に、家族や他者に共感できるような授業であった。3位は、全員が参加できる授業であった。さらに、普通の授業と異なったアイディアの援助・指導方法で工夫されていた、と評価した。

3．因子分析の結果、「傘の滴」を導入した実践授業は、第1因子「内面の揺さぶり」と第2因子「援助・指導方法」の負荷量が高かった。他の授業との比較では、「ゴミ・リサイクル」「抗菌・防臭加工」は「学習者理解」第3因子と「実践力の育成」第4因子の負荷量が高かった。

4．絵図によるセルフチェックの手法は、指導過程の工夫、取り入方によって、授業内容の質の変換を図ることができる手法であると示唆された。

第2部　授業実践

中学校3年間の家庭科学習と「傘の滴」

I　はじめに

激動する社会にあって、人間としての発達成長上の危機をどう越えるか。そのために今何ができるのか。人間性を中心とする根源的な転換が求められる今日、各領域で再構築が行われている。

教育界においても大改革が行われ、「生きる力」がキーワードとなった。中央教育審議会の答申によれば、「これからの学校像」として、「子供たち一人一人が大切にされ、教員や仲間と楽しく学び合い活動する中で、存在感や自己実現の喜びを実感し……子供たちを一つの物差しではなく、多元的な、多様な物差しで見、子供たち一人一人のよさや可能性を見い出し、これを伸ばすという視点を重視する」としている。さらに「学校教育の基調の転換に向けた教員の意識改革も極めて重要である」と指摘している。

家庭科は生活に密着した教科故、実践的体験的学習が重視され、創意工夫が求められている。援助者としての教師のありようが授業を変え、生徒と共に育つことができるのであるから、教師自身の成長が望まれる。大学や中学校教師としての学習の道を切り開く転機となったのが、人間の行動に関する理論や技法、今回は交流分析、サイコドラマ、ブリーフセラピー、絵図によるセルフチェック方式、との出会いだった。人としての生き方にかかわる研修の機会を何回も得られ、学習することの大切さを実感してきた。

本研究は、その内の一つであり、「絵図によるセルフチェック方式」をどう活用すると効果的か、その一活用法の研究である。本実践授業で用いた「絵図によるセルフチェック方式」の開発者（小島　茂　1996）は「傘の滴」について、「子供時代の自分」について知る上で特に有効であると述べている。そこで、中学校3年間の家庭科学習を終えようとしている生徒を対象に、傘の滴を応用して最後を締めくくり、これからの生き方へ発展させることを目的として実践に移した。

II　方法

1．対象：中学3年生35名の2クラス、計70名
2．期間：1994年4月から1997年3月まで
3．内容：家庭科学習と絵図方式傘の滴
4．方法：援助・指導案（略）
　(1)　中学校入学時から卒業までの3年間の家庭科学習を基本テーマとする傘を描く。
　(2)　傘の「滴」に、感じ取った内容や気付いたことなど具体的内容を書いていく。
　(3)　シェアリング、分かち合い。

III　結果と考察

1．生徒の内面を揺さぶる体験的学習

生徒の内面を揺さぶる体験的学習実践記録を表1に示した。自己への気付き、やりとりの分析、生き方、再決断の順序を大切にしたのは、人間としての生き方にかかわる学習故、感性を育て、個の確立を図りたいと考えたからである。

生徒達は相互交流を通して、いろいろな生き方があることを知った。互いの人格を尊重し合い、よさを生かし合う中で自己を確立することの大切さを学んだ。学習を重ねるごとに自己への気付きを増し、多くの人との交流による自己成長の喜びと、人生を考える楽しみを感じ取っていた。真の自己を発見し、かけがえのない存在であることを知ると、人生を前向きに生きようとするエネルギーが湧いてきたという。

内面を揺さぶる体験的学習（表1）は、全体のつながりから自己を分析し、より豊かな生き方を目指そうとする姿勢が育ち、効果的だった。長い人生をどう生きるか、そして今をどう生きるのがよいか、生徒一人一人自分の人生を明るく展望できたのではなかろうか。

2．授業実践

表1　中学校3年間の内面を揺さぶる体験的学習

分　節	学　習　内　容	1年	2年	3年
1　自己への気付き	・エゴグラム	○	○	○
	・自己への気づき	○	○	○
	・他者理解	○	○	○
2　やりとりの分析	・アサーショントレーニング	○	○	○
	・私もOK、あなたもOK	○	○	○
	・ストローク	○	○	○
	・サイコドラマウォーミングアップ	○	○	
	・ロールプレイ	○		○
	・絵を媒体とした語り合い	○	○	○
3　生き方	・人生設計	○	○	○
	・生き方	○	○	○
	・私の誕生	○		○
	・幼児期の思い出	○	○	○
	・幼児決断			○
	・解決志向	○	○	○
	・絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」			○
4　再決断	・生き方を変えてみよう			○

表2　授業実践
－中学校3年間の家庭科学習と「傘の滴」－　(50分)

学習過程	学習活動	援助・留意点
問題の意識化 (5分)	生徒は教師の例を自分の学習体験と重ね合わせて見ているうちに、自分も傘の滴を書いてみたいという意欲を持ったように感じた。	3年間の家庭科学習を振り返り、教師の例を3つ簡単に示した。
課題追求 (40分)	画用紙を手にすると、一斉に表現活動を展開した。悩みを抱える生徒、絵図による表現が苦手な生徒も真剣だった。 相互交流により、多様な傘があってよいことに気付くと、一人一人自分の傘を作り、深い表現活動に入り込んだ。 書き終えた生徒には、いろいろ学習してきた自分を発見すると同時に、出会った人々に感謝の念を抱いているようなよい表情が見られた。	個々に表現できるように援助した。 相互交流によりヒントを与えた。
まとめと発展 (5分)	数名の傘の滴を見て、他から学び、共感し、共に3年間の学習のまとめとした。	数名の傘の滴を提示して、相互に学び合い共感できるよう説明で援助した。

(1)　授業実践記録を表２に示した。本時の授業は、中学校３年間の家庭科学習を基本テーマとして、「傘の滴」を応用してまとめた。学習内容の定着化と自己分析を狙った「傘の滴」の活用法の試みである。

多くの生徒がどんどん書いていた。「書いているうちに、いろんなことが思い出せて懐かしかった。まるで魔法にかけられているみたい。あー自分がここに位置づくのだと書きながら気付く。」とある生徒はいう。書きながら過去を振り返り、忘れかけていた内容を新たにしながら懐かしんでいる様子が全体的に感じられた。３年間多くのことを学んだ跡を見て、いろいろ書けたことに驚きを示す生徒も多かった。自己への気付きが結構あってよかったという生徒達は、〈自己分析できて有意義だった。今の積み重ねを大切にし、将来へ踏み出そう〉と結んでいた。

絵図を用いた方法は、生徒が興味を持って取り組み自己分析ができた。相互交流を通し、人には多様な表現があることや、多様な生き方があることを知り、自己の生き方を見直すことができたのではなかろうか。

(2)　授業実践での生徒の「傘の滴」例を絵図１から絵図６に示した。

絵図１　Ａ子の傘の滴「保育学習での自分発見」を図１に示した。

〈一番嬉しかったことは、今の自分が一番必要とする何かを見つけることができた。家庭科学習で社会性が育てられた。〉

Ａ子は１年生の頃、無気力で態度も乱れ、心の動揺を示していた。２年生の食物領域において、調理実習の成果を家庭での実践に移した時、家族の中の自己を見つけたのであろう。栄養のバランスを考えるようになったという。Ａ子は３年生の保育領域でいろいろ学び、心の安定化

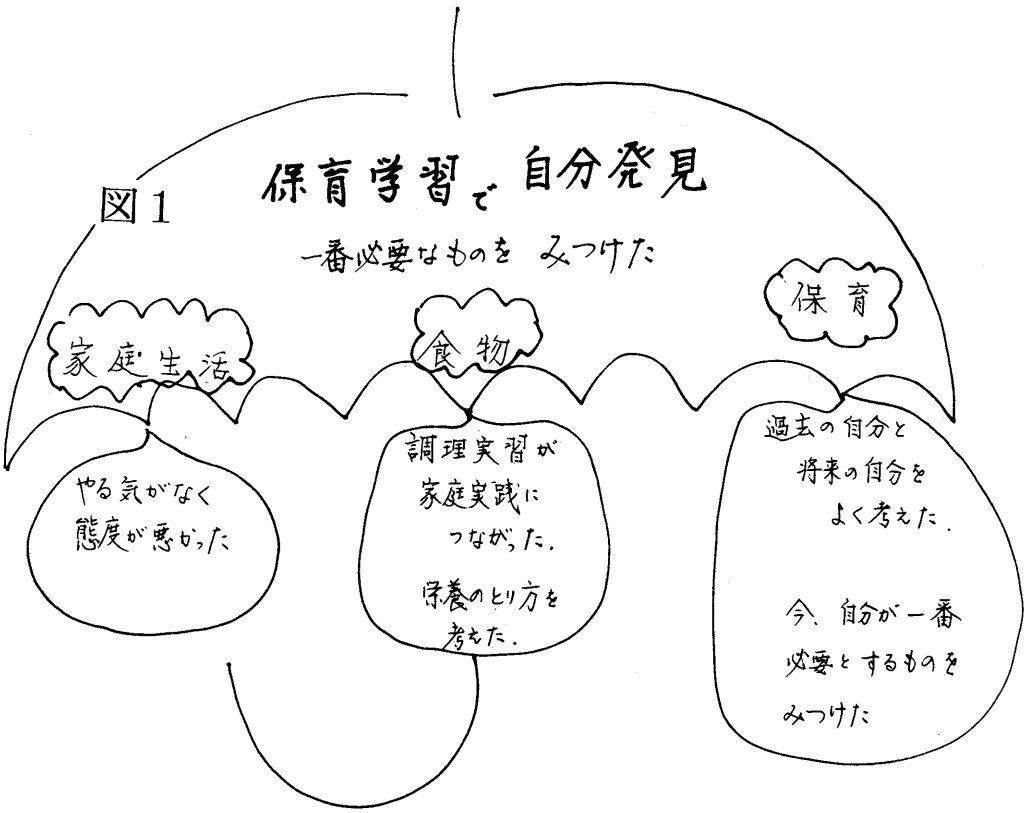


図１　Ａ子の傘の滴

を図ることができた。

＜１年の頃は、やる気がなかったからさっぱり忘れた。２年生では、調理実習が唯一の楽しみだった。家でうまくつくれてから栄養のとり方をよく考えるようになった。３年の保育学習ではいろいろ学び、今までの自分と将来に向けての自分をよく考えられるようになった。家庭科というのは、他の授業と違って社会性を育てるものかと思った。先生の姿からも、家庭科のすごさが伝わってきた。本当に勉強してよかった。＞

絵図２　Ｂ夫の傘の滴「家庭科学習と自分の変容」を図２とした。

〈家庭科を３年間学習してきて一番実感したことは、自分の生活や考え方などが変わったことであり、とても驚いたことだ。〉

Ｂ夫は、サイコドラマやロールプレイなどの体験学習が一番心に残っているという。両親の立場を理解して家族とかかわり、自分にできることは積極的に実行している様子がうかがえる。自分の変容に驚きを示すＢ夫は楽しみながら学習できてよかったと喜んでいた。

＜１年生の時の家庭科の学習では、ロールプレイをやったことが一番思い出に残っている。家庭の仕事一日体験学習もやってみて、父や母の大変さがわかった。自分でもやれることは進んでやろうと思うようになり、今ではそれができるようになってきた。ロールプレイの勉強のおかげだと思っている。食事づくりを勉強してからは、栄養のバランスを考えるようになった。食品を買う時は、パッケージの裏の表示をみるようになった。保育学習では、ほんの数か月の実習で幼児を好きになり、自分が変わったことはとても驚いたことだ。家庭科の学習では、いろいろなことが学べて、自分のためになったのでよかった。＞

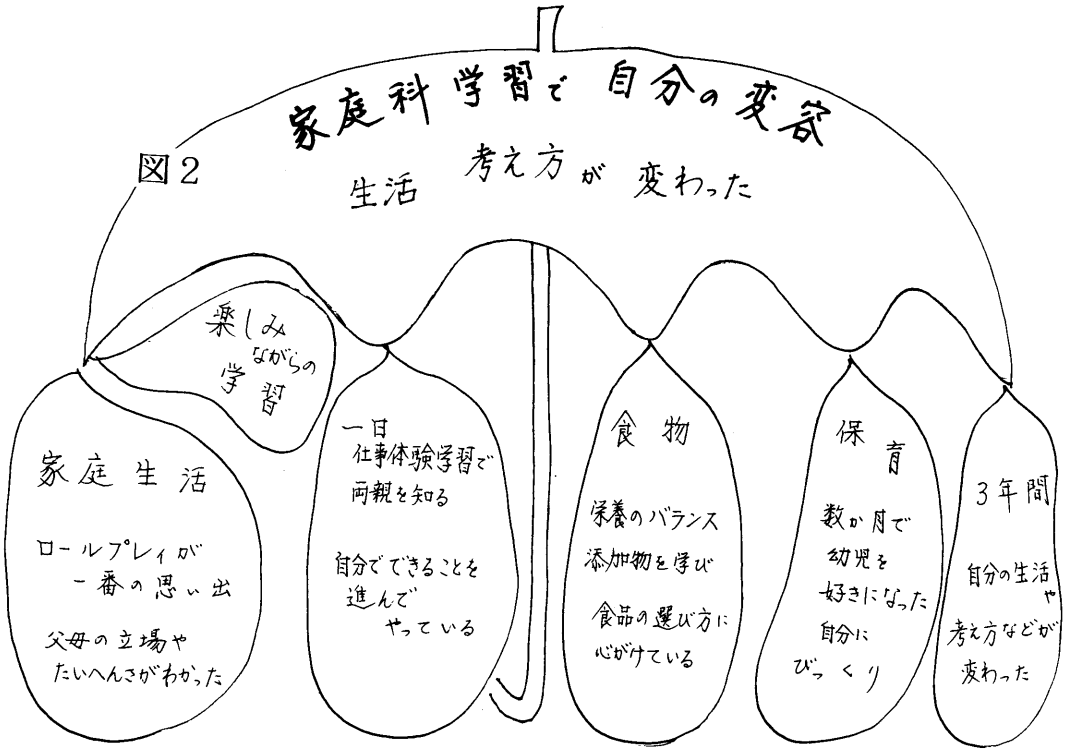


図２　Ｂ夫の傘の滴

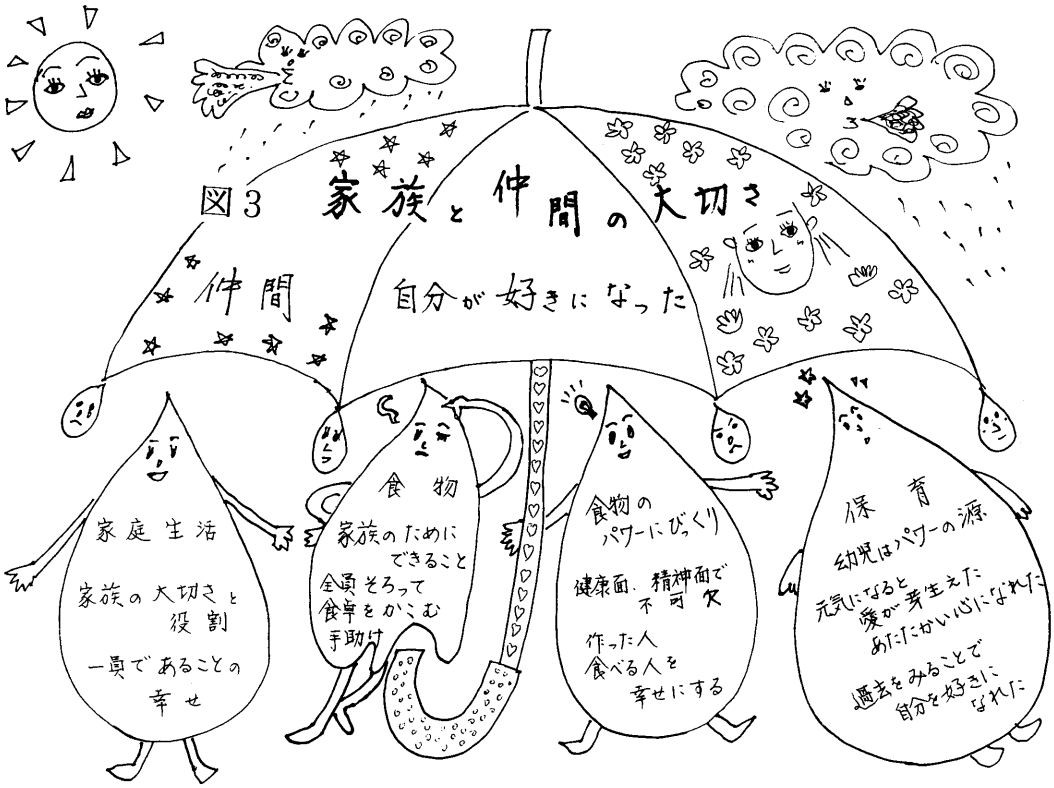


図3　C子の傘の滴

絵図3　C子の傘の滴「家族と仲間の大切さ」を図3とした。

〈3年間の家庭科学習で一番大切だと思ったのは“仲間”だ。私は今の自分が好き。過去を見ることで、今の自分が好きになれた。〉

C子は、家族の大切さを実感し、その一員であることを幸せだという。家庭科学習で学んだ知識、技術を生かして、自分にできることを努力している。特に食事作りにかかわる中で、食べ物との出会いから多くを学ぶ。保育領域では、幼児との出会いから多くを発見。食物のパワーと幼児のビッグパワーに、びっくりしたというC子は、さらに感性を膨らます。

＜『家庭生活』この学習で、家族というのはこの世でたった一つの、かけがえのないとても大切な人々で、私もその一員なのだと嬉しく思えた。『食物』私が家族のためにできること、それは、毎日楽しく全員が揃って食卓を囲むための手助けをすることだ。そのために、この学習で学んだ“知識・技術”を生かして、家族への夕食をつくったりした。食べ物というのは、今考えても不思議だ。つくった人、食べる人を幸せにしてくれる。生きていくうえで、健康面でも精神面でも欠かすことのできないものだ。調理実習の時にも、みんなでつくる楽しさと、でき上った時の喜びプラス食べるときの幸せを一緒に味わった。『保育』この学習で一番びっくりしたのは、幼児のビッグパワー。保育所へ行った時、とても元気になれたし、愛が芽生えた。とてもあたたかな気持ちになれた。きっと家族の中にベイビイや幼児がいたら、毎日がドキドキの発見ばかりなのだろうなと思う。そして、パワーの源になっただろう。私も幼児の時にそんなパワーがあったのかな。＞

絵図4　D子の傘の滴「保育で学んだ自分の人生」を図4とした。

〈大人になるには心の発達が大切だからもっと自分を伸ばしたい。何もかも現実的に考えられるようになったから、将来へ一歩大きく踏み出せそうな気がする。気持ちや態度も自分OKあなたOKに努力してパーフェクトな人になりたい。〉

D子は最も心に残った保育領域を傘として描いた。体験学習の大切さを実感し、得たものは宝物という。過去を見ることにより、今の自分をもっと知りたいという気持ちになり、将来をよく考えるようになったという。自分の人生を考えるD子は将来への希望に胸を膨らます。

＜中学校3年間の学習で、私が一番心に残ったのは保育学習だった。実際に保育園へ行ってみて、この気持ちは、体験した人でなければわからないと思った。実習を終えたあとの、「また来たい」という思いは宝物だと思った。今もその気持ちは変わっていない。幼児の学習をしてから自分はどんな人で、どんな性格なのだろう、大人に一歩前進したと思っているけどほんとうはどうなのだろうか、と自分についてもっと知りたくなった。大人になるって体の発達より、むしろ心の発達の方が強いと思う。ただ物知りとかそういう面もあるけど、心が子供の人は、やっぱり大人にはなれてないかも。みんないつかは、心も大人になるんだ……。私も……。最近なりたい＆憧れているのは、人のために＆人の役に立ちたい、そんな職業につきたいと思う。口で言えるような簡単なものではないことはよく知っている。卒業を間近にして夢も何もかも現実的に考えられるようになった。将来についてもよく考えられるようになった。夢も広がり、この夢に向かって進行中。家庭科で学習した自分もあなたもOKに努力しよう。＞

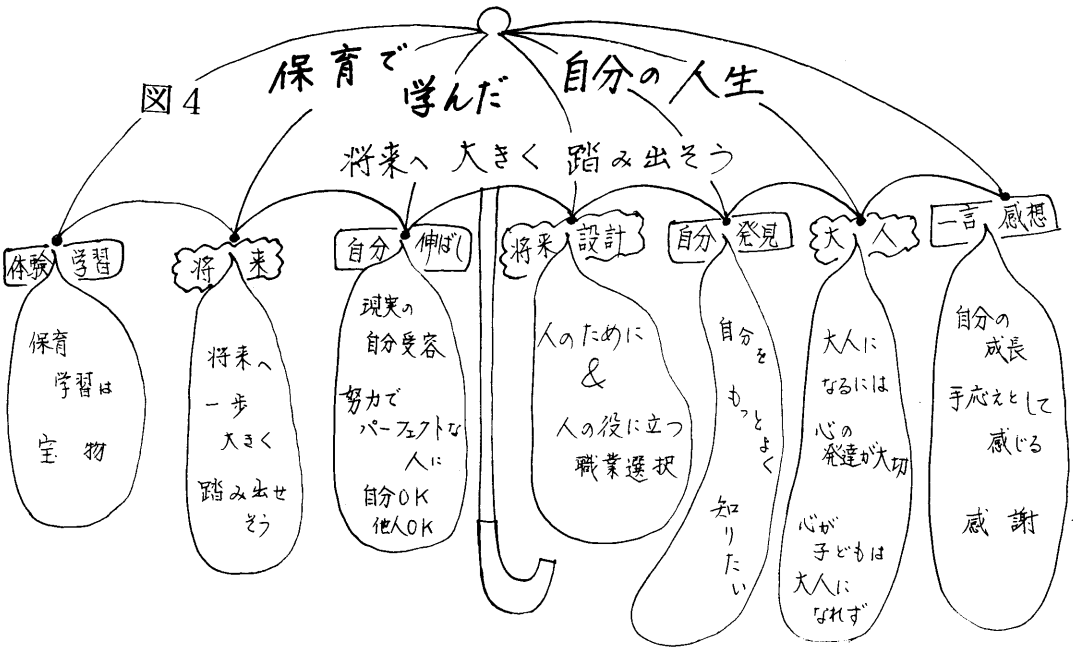


図4　D子の傘の滴

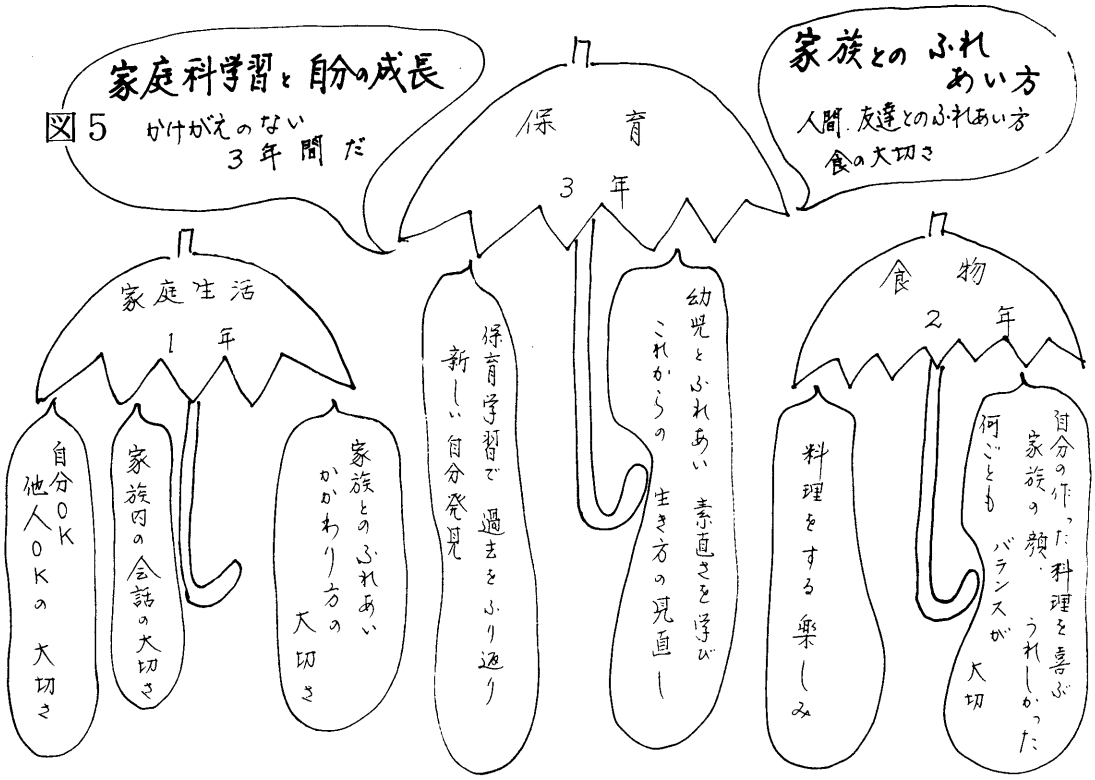


図5　E子の傘の滴

絵図5　E子の傘の滴「家庭科学習と自分の成長」を図5とした。

〈3年間の学習で家族とのふれあい方、人間、友達とのふれあい方、命の大切さなど、生きていく上でとても大切なものを学んだ。すごく自分は成長した。この3年間は、かけがえのないものだった。〉

E子は、各領域においてポイントをしっかり押さえ、体験を通して学ぶことの大切さを実感している。家族とのふれあいを大切にし、何事もバランスが大切だという。保育の学習では、昔の自分を振り返り、新しい自分を発見してこれからの生き方を考えた。成長の大きいE子だ。

＜『家庭生活』では、家族とのふれあい、かかわり方について学習し、どうすれば楽しく過ごせるか学んだ。この学習を通し、自分も家族もOKになるよう努力することが大切だとよくわかった。『食物』では、今まで以上に料理をする楽しみを覚えた。私の作った料理を家族に食べてもらって、その喜ぶ顔を見て私も嬉しくなった。そして、何事もバランスが大切だということがわかった。『保育』では、幼児の学習をすることで昔の自分を思い出し、新しい自分発見ができた。幼児とふれあうことができ、素直な気持ちを教えられた。＞＜書き終えてみるとこの3年間でいろいろな学習をしたのだなあと懐かしく思った。この紙には書ききれないほどの多くのことが、私の心の中にあって、だから自分を成長させることができたのだと思う。思い出は、一人では決して作れないものばかり、こんなふうに自分を成長させることができたのもこの3年間に出会った人達のおかげ。人間関係の大切さがよくわかった。こんなに忘れられないくらいの思い出を残してくれた人達に心から感謝する。これからも、家庭科で勉強した、人との触れあい方を大切にしていきたい。＞

絵図６　Ｆ夫の傘の滴「家庭科の思い出と自己形成」を図６とした。

〈１時間ごと学習を重ねるうちに、自分の心が開け、２倍にも３倍にも大きくなっていく心を感じた。今、自分がこの世界にいられるのは、すべて家族や周りのひとのおかげだ。本当に感謝するのみで、その愛情を自分の子供にも受け渡したい。〉

Ｆ夫は、３年間の学習を見事に傘の滴に仕上げた。本当の自分を表現することの大切さを知り、心の大きな成長を感じたという。季節ごとに書かれた滴には、体験学習をしっかり踏みしめた跡があり、学び取った内容は生活に生かされていた。豊かな心の成長を示す傘の滴である。

＜『家庭生活』では、生きていくうえで土台となる家庭を勉強することが、２・３年で勉強する『食物』や『保育』の土台となっていたことがわかった。班の中で家族を作って役割を決めたことがあった。ちなみに自分はお父さん役だったことを懐かしく思い出す。一番勉強になったのは、『食物』で学習した栄養のバランス。自分は運動部だったから、栄養については特に気を使っていた。母は料理がうまくてバランスは完璧。いつも手作りで食べさせてもらっていることに感謝している。食物学習は、これも生きるうえで必要不可欠なことを学んだ。自分が自立して生活していくうえで、料理や栄養のバランスを学ぶことはとても大切なことだと思った。調理実習でみんなが楽しく作って食べた日のことをよく覚えている。これからの独立した自分の生活の中で生かせたらいいなあと思う。『保育』の実習、幼児のパワーに唖然とした。幼児のような元気があれば、どんな辛いことでも乗り越えられる気がする。近くにいるだけで何か心の底から力がわいてくるようだった。＞

＜本当の自分を表現することがとても大切。＞

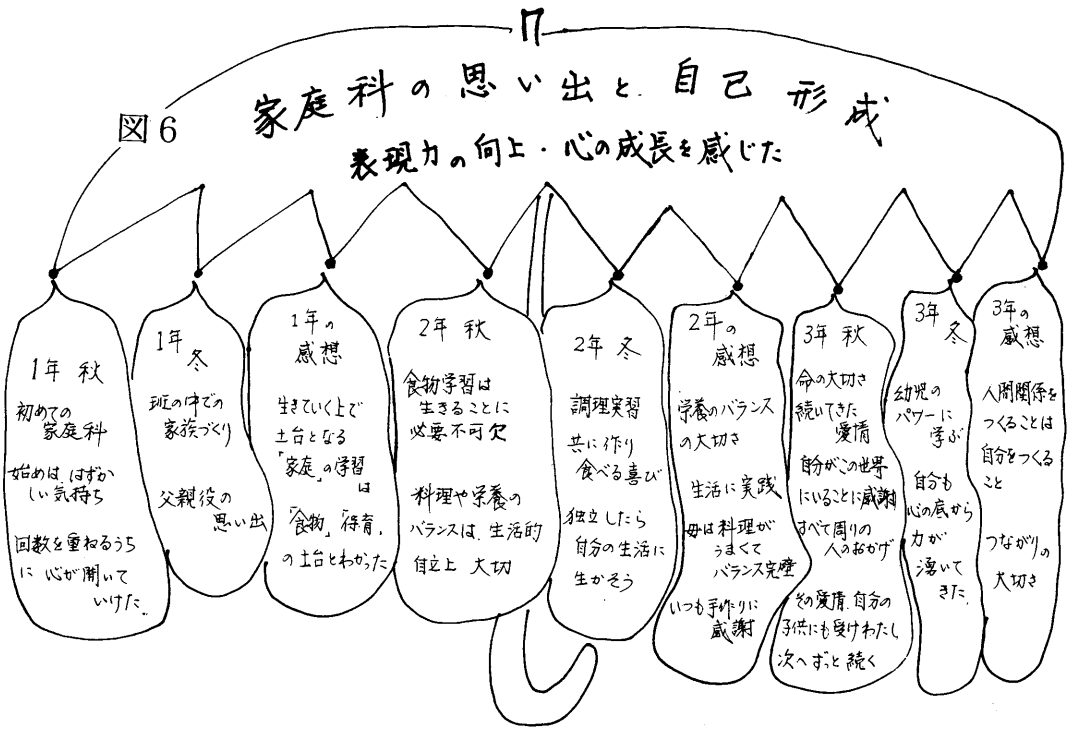


図６　Ｆ夫の傘の滴

3．「傘の滴」に見える体験的学習の成果

『家庭生活』では、アサーショントレーニング、ロールプレイ、ストロークの授受などの体験学習が、効果的であった。自己に気付き、自分が変わったら相手との関係がよくなったという生徒達が目に付いた。「家庭科の学習は調理や手芸だけでなく、生きるために大切な勉強であり、またその人自身の生き方を考える勉強だと思う。生きていく上で、土台となる“家庭”を勉強する中で、自分を探し、成長していくのだと思った。」とある生徒は傘の滴に書いている。

『食物』では、人や物との出会い方を、調理実習という体験学習を中心に学び取っている。バランス食の大切さを定着化し、自己の食生活を見直す傘の滴がいくつも見えた。調理実習では、仲間との楽しい交流、実習中のいろいろな発見、家庭での実践が心に残っていた。自分ＯＫあなたＯＫ、相手の良さ発見に心がけたら、人間関係がうまくいき、よい活動ができたという。食品一つ一つの持ち味を生かし合うことの大切さは、人間関係にもいえると気付いた生徒もいた。食物では、人や物との出会い方において、体や心を育てることの大切さに気付いた傘の滴が多かった。

『保育』では、絵図やロールプレイにより、思い出をたどる体験学習や、保育実習が成果を上げた。幼児期の忘れかけていた大切な思い出や心を、本学習で取り戻すことができたからであろう。過去を振り返り、新しい自分を発見した生徒達は、人生に対して前向きになれた。両親に感謝し、今を大切に生きるのだという。幼児の見方や自分の見方が変わったことを実感し、未来を見る楽しみを感じたり、目標を持つに至った。保育という傘の滴には、人間関係の中での自己分析があった。人間の奥深さを感じながら、前へ大きく踏み出そうとする生徒一人一人の意気込みが伝わってきた。

生徒は、傘の滴から奥に見える各領域の学習内容を振り返り、自己を知ると同時に内容理解もできたのではないか。表１「中学校３年間の内面を揺さぶる体験的学習」の学習内容と、それを表現できる「傘の滴」という場が機能してこそ、できたことである。生徒と共に作り上げた成果であることを評価したい。

Ⅳ　まとめ

中学校３年間の家庭科学習のまとめとして、３年生35名の２クラス、計70名を対象に、絵図方式「傘の滴」を導入し、その有効性を検討した。

結果は次の通りであった。

1．学習者の立場では「傘の滴」の取りかかりにおいて、「どんどん書ける。」、「書いているうちにいろいろ思い出されいっぱい書ける。」、という反応が全体的に見られ、全員が参加できた。
2．絵図によるセルフチェック方式「傘の滴」は、生徒の興味を引き、家族や仲間など人間関係の中で自己分析ができた。
3．教師の立場では、描かれた「傘の滴」には、家族や仲間とのかかわりの中でその生徒らしさが表現されており、よさの発見や生徒理解につなげることができた。
4．教師側の援助・指導の在り方について、教師自身の自己開発となり、絵図によるセルフチェック方式は、有効であると評価できた。
5．「絵図によるセルフチェック方式」は、絵図の工夫や他の技法との組み合わせにより、授業を変容させ、発展させる可能性がある。21世紀に向けた家庭科教育に、この手法を活用することの有効性と必要性が示唆された。

謝辞：研究を進めるに当たり、ご協力いただきました教師・学生・生徒の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

引用文献

・末松弘行、和田迪子、野村忍、俵理英子、(1989)：「エゴグラム・パターン」－東大式エゴグラムによる性格分析－、金子書房　初版　第２刷
・杉田峰康、(1992)：教育カウンセリングと交

流分析、チーム医療
・高橋史郎、(1997)：癒しの教育相談理論、明治図書
・高橋類子、増野肇、(1996)：生活科学教育における「サイコドラマ」導入の意味、心理劇、VOL1、no 1　49～60
・寺脇研、(1997)：21世紀へ教育は変わる、近代文芸社
・牧野カツコ、(1996)：人間と家族を学ぶ家庭科ワークブック、国土社